

岩手日日新聞 平成27年4月1日

ジュニア検定で優秀者表彰

2014年度に行われた一般財団法人防災検定協会主催の第2回ジュニア防災検定で、一関市立大東中学校1年の足利美空さんが成績優秀者表彰を受けた。3月27日に東京都内で表彰式が行われ、学習を通じて防災意識を高めた足利さんは「突然の災害が起きてもパニックにならないよう備え、行動したい」と語っている。

同協会によると、検定は日常から防災や減災に深い関心を持ち、自分で判断し、行動できる「防災力」を身に付けることを目的として実施。程度に応じて初級、中級、上級を設けており、第2回は全国約5000人が受検した。

家族で防災、減災について話し合ったことをまとめて提出する事前課題、災害の種類など設問に答える筆記試験、災害をテーマとした自由研究に取り組む事後課題の3ステップで行われ、総合評価70点以上が合格となる。

成績優秀者表彰は合格者のうち特に良い成績を上げた受検者をたたえるもので、3月27日現在で初級から上級まで計109人が受賞。このうち足利さんが受検した中級は30人で、本県からは足利さんのみ。表彰式では足利さんら出席した成績優秀者17人に表彰状と記念品が贈られた。

大東中では防災教育の一環として1年生46人が2月、検定に挑戦。足利さんは事前課題で災害時の家族の対処などに関して母親と話した内容をまとめ、事後課題では地元の同市大東町曾慶地区の同級生と共に地区内の防災マップ作りに取り組み、筆記試験の結果と合わせて高い評価を受けた。

足利さんは「筆記試験は考えて書く内容が多く結構難しかった。成績優秀者表彰は取れるとは思っていなかったのうれしい」と笑顔を見せる。

課題学習を行う中、適切な対処法をまとめながら防災意識を高めた様子で「災害が起きたとき、その場によって対応も違う。自分の役割をきちんと考えて備えておくようにしたいし、積極的に行動して身近な人を助けていきたい」と誓っている。